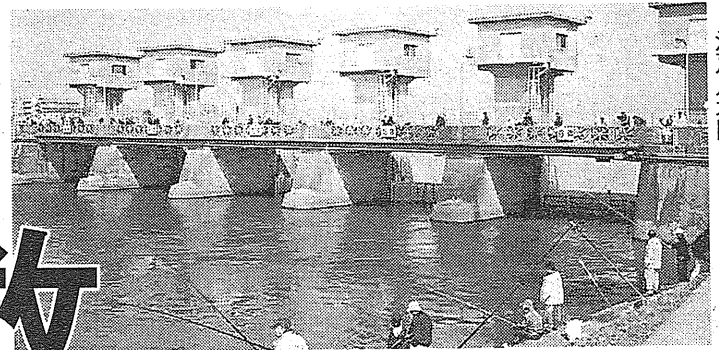


江戸川で稚アユ



稚アユの救出作戦が行われる江戸川水門

22日 荒牧小(前橋)の親子20組参加

稚アユの遡上を阻んでいる東京都江戸川区の江戸川水門で22日、稚アユ救出作戦が行われる。前橋市立荒牧小から親子20組が

参加。地元の江戸川区と千葉県市川市の小学生と協力し、川を上げずにいる稚アユを助け出す。

救出 水門開き遡上手助け

救出作戦は地元の利根川・江戸川流域ネットワークが、昨年四月に続いて企画した。前回は県内の釣り愛好家らでつくる「日本一のアユを取り戻す会」の会員が参加。今回は子供に小さな命を救う体験をしておろすと、同会がサケの放流など環境教育に熱心に取り組んでいる荒牧小に声をかけた。

最初の関門となるのが江戸川水門。上下流の二つの水門でダムのように水をためており、水量調整や船が通る時に水門を開ける時以外は、魚が行き来できない。

作戦には五百人が参加する。カヌーやボートに乗り、船用の水門を開けて通過することで、稚アユを遡上させる。三十分から一時間程度開門する予定で、主催者は数万匹から数十万匹が遡上できると試算している。

引率する前橋市教委の中村久和子指導主事は、「懸命に川を上ってくる魚の姿を見て、生命や環境の大切さを体感してほしい」と期待する。

稚アユが県内まで行くには、千代田市の利根大堰の水門や魚道の改修が必要とされている。取り戻す会の大塚克巳会長は「魚に優しい川をつくるのは水源県の責務。上流と下流みんなの力を合わせて実現させたい」と話している。